

学校目標	重点目標	学部分掌	学部・分掌目標	手だて・方策	評価指標	評価					○成果 ☆次年度に向けた課題及び取組
						A	B	C	D	E	
心身ともに健やかにたくましく生きる力と豊かな心を育む	①安全で安心して学ぶ学校	小・中学部	①自分や周りの人を大切に思う気持ちを育てる。	・学部集会等で感じたことを伝え合う時間を設けたり、学部全体での学習で学んだことを発表したりする時間を設ける。	・お互いのことを知ったり、相手のことを考えたりするために、合同の学習機会を設定することができたか。	19	26	1	0	6	○参観日での学習報告会や縦割りのグループによる学習によって、お互いの学習を知ったり、発表を聞いて直接感想を伝え合ったりできた。この取組が、達成感や自尊感情の高まりにつながった。 ☆生徒によっては合同学習の学びの場が難しいこともあるので、支援の方法を個々に検討する。 ☆少人数でしかも実態差があるが、小中学部でいろいろな集団が組める良さを生かす。
			②自分から「～したい」という気持ちやあこがれを大切に、主体的に挑戦する児童生徒を育てる。	・児童生徒の実態から興味関心を引き出し、自分から様々なことに挑戦できるような機会を設定する。	・人とかかわる学習や、チャレンジ学習等で自分から挑戦できるような学習場面を設定することができたか。	28	17	1	0	6	○小学部：中学部生徒との学習や石見東小学校との学校間交流を通して、役割を意識して活動したり、難しい課題にも挑戦したりする姿を引き出すことができた。 ○中学部：チャレンジ学習において、前期の反省を踏まえた職場体験を実施することによって、難しいけどやってみようという意欲を引き出した。 ☆児童生徒のやる気を引き出すために、一人一人の思いをじっくり聞く時間を設定したり、チームで多面的な実態把握をしたりできるようにする。
			③身近な地域の人、もの等を題材に、様々な角度から児童生徒の学びを広げ、深める。	・地域の人にかかわる学習を設定したり、学んだことを掲示して振り返ったりできるようにする。	・地域の人から学ぶ学習を設定することができたか。また学んだことを掲示して振り返ったり深めたりできたか。	37	13	0	0	2	○大豆、小豆、餅米など1年を通して題材を考えたり、単元目標を細かく設定したりしたことが、児童生徒の主体的な挑戦や広い学びに繋がった。 ○地域の専門家によって本物に触れたり、やり方を見せてもらうことで、児童生徒自身が同じようにやりたいという意欲を育てることができた。 ☆継続して地域の人から学ぶ機会を計画的に設定する。
		高等部	①人間関係の中で、安心して過ごせるスキルを身につけさせる。	・先輩後輩、恋愛関係など様々な人間関係の中で生徒の悩みや戸惑いに寄り添い、相談ののったりアドバイスをしたりする。	・問題を回避させるだけでなく悩みに接した時に「生徒自身に考えさせる」ように支援できたか。	9	36	4	0	3	○悩みが多い生徒に個別で時間を作り、関わることができた。 ☆生徒自身に考えさせる部分と教える部分のバランスが難しいが、教員間で情報共有しながら関わり続ける意識を大切にしたい。
			②自分の意見や気持ちを伝えられる生徒を育てよう。	・様々な学習場面で、生徒自身が意見や気持ちを伝える場を設定する。	・そのような学習場面や機会を設定することができたか。	12	32	0	0	8	○考える場、伝える場、共有する場を意識して設定できた。 ☆全体指導後、一人一人がそれをどう受け取ったかシェアする時間を設定できるとよい。 ☆生徒の伝えを受け止めどう返すか力量を高めていける機会を作る工夫ができるとよい。
			③外部講師の方や地域のプロなどから学ぶ機会を大切にす。	・学級、学部全体で外部の方に教えてもらう授業を設定する。	・各学級で一度は外部の方から学ぶ機会を設定できたか。	26	23	0	0	3	○進路面では良い学びができた。矢上高校交流は、教えてもらうだけでなく、共に学ぶ場となった。 ☆何をどのように学び、それが他の場面でどのように成果として現れたか共有できるようにする。
	総務部	①避難訓練2ヶ年の年間計画を検討・実施し、反省と改善を通して防災訓練の充実を図る。	・昨年度の反省・課題を踏まえた避難訓練を計画的に実施する。 ・四葉の里合同避難訓練を実施する。	・計画した防災訓練を確実に実施し、その都度反省と次回への改善策を提示できたか。	35	16	0	0	1	○避難訓練が計画的に実施できた。 ☆実施計画に、避難訓練時の期待する姿を具体的に示し、アンケートに項目に事前事後指導の欄を設ける。例えば、事前指導の時間、事前指導の指導内容、訓練時の実際、事後指導を簡単に書いてもらうことを検討する。	
		②USBや印刷物、データ等の取扱いについて周知し、個人情報の保護に努める。	・USBの定期的な点検や情報管理の研修会を年間2回実施する。	・月1回のUSB点検とニーズに応じた研修会が実施できたか。	34	16	0	0	2	○USBの管理等、適切に実施できた。 ○教員用のパソコンと生徒用パソコンの区別をしたり、パソコンの使い方（個人情報は残さない等）の徹底をしたりする。	
	教務部	①学習指導要領改訂をふまえ、「特別の教科 道徳」について、指導方法や評価等について校内で周知し、実践を推進する。	・「特別の教科 道徳」について、年間指導計画等への記入のポイントを周知し、研究部と連携して各学部の授業実践を推進する。	・「特別の教科 道徳」について、年間指導計画等への記入のポイントが周知され、各学部の実践を推進することができたか。	30	16	0	0	6	○道徳週間を実施し、小・中学部については公開授業とした。また、各学級において、略案作成の際に授業作りシートを作成してもらい、ねらいを明確にして授業にあたることに重点をおいた実践を推進した。 ○研究部と連携し、道徳科の授業作りと評価についての研修を行った。様子の記録と評価の違いを周知し、児童生徒の実態に合った各学部の実践を推進した。 ☆合わせた指導において、道徳科のねらいを合わせて指導することの難しさが見えてきた。小中学校での取組を基盤にして、合わせた指導で道徳科の取組をどのように進めていくかを深めることが課題である。 ☆道徳週間を設定（1・2学期に1回ずつ設定）する。また、夏休休業中に合わせた指導での実践、評価についての研修会を実施する。	
		②各学部の教育活動が計画的かつ円滑に行えるよう、教務関係文書の様式の浸透を図り、活用を推進する。	・教務関係文書の様式を整理し、教務の手引きの配布、メール配信を通じて、記入のポイントや作成日程の周知を図り、活用の推進を図る。	・教務関係文書が整理され、支援の見直しや授業改善につながる記入のポイント、作成日程の周知を図ることができたか。	28	17	0	0	7	○前期評価で支援の見直しや授業改善につながる記入が不十分だったケースについては、記入のポイントを確認し、後期に向けて再度記入を呼びかけたことで、後期については課題点のみの記載ではなく、改善案の記載が見られ、年間指導計画の授業への活用が図られた。 ☆教務関係文書の作成日程の周知は図ることができたが、記入にあたって教科担当者で協議をする時間の確保が十分ではなかった。 ☆教務の情報提供は適切に行われていたと思うが、それをどう一人一人が分かって、活用するかについては課題である。	
	子ども支援部	①全校レクや行事を通じ、自分の役割を果たしながら集団の中でのかかわりを深める。	・執行部生徒が話し合いを重ね、準備を行い、全校児童生徒が主体的に取り組むことができるように、各学部と連携を図りながら支援する。	・児童生徒がお互いを大切にしながら関わりあえるような全校レクを、年間3回、計画・実施することができたか。 ・学級委員と執行部生徒が連携を図りながら、児童生徒の意見が反映されるような取り組みや、児童生徒総会を年2回計画・実施することができたか。	30	19	0	0	3	○執行部生徒からの発信に全校児童生徒が参加しやすいように、先生方に工夫して頂いたことで、全校レクや全校特活を行うことができた。 ☆学級委員の取り組みを通して、個人の意見が反映できる状況になってきているとは思いますが、取り組み方については、今後も検討を重ねていく。（例：生徒会長から学級委員に任命書を渡す） ○全校レクや行事等のアンケートは、次の活動の参考にしている。メール配信ではなく、学級ごとにアンケートを配布したことで、多くの意見を集約できた。今後はアンケートを集計したものをメール送信するようにしたい。	
		①専門性の向上につながる研修を設定する。	・外部講師を招いて研修会を行い、指導助言を受ける。 ・教員同士がお互いの意見を出し合い、新たな気づきが生まれる協議になるよう工夫する。	・各自の専門性につながる研修を実施できたか。	21	25	3	0	3	○今年度の校内研究は、学部で行うのではなく、視点（児童生徒の主体的、対話的で深い学び）を持って一人一人が授業を組み立てていくことに力を入れた。「授業を見せてください」で授業を行い、それぞれ協議を行うことができた。 ○外部講師を招いた研修では、校内研究のねらいをもとに、新学習指導要領、授業づくり、生徒理解等について深めることができた。 ☆一人一授業について、その成果を全体に共有することが難しかった。また、運営の仕方についても検討が必要である。次年度は、学部で研究をまとめる方向で考えているので、取組について分かりやすく提案したい。	

③ 地域と連携・協力して取り組む学校	進路指導部	①進路希望や生徒の実態、取り巻く環境を踏まえ、進路指導を推進する。	・本人の実態や本人・保護者の希望を基に、関係機関等とも連携して様々な可能性を模索し、進路選択や進路決定を促す。	・本人・保護者の希望を基に、適性に応じた実習先や就労先の選択を支援できたか。	21	24	1	0	6	○一つ一つの事例に対してとても丁寧に指導していた。 ☆石見養護学校を取り巻く状況や課題について共通理解できるよう、来年度は職員会議Ⅱの場で、進路指導に関わるミニ研修を計画する。
		②現場実習を核として、自分の適性や特性についての理解を促し、卒業後の生活をイメージしながら進路学習を行う。	・職業科や生活単元学習での学習内容を精選し、外部講師による学習も取り入れ、系統的な指導ができるような学習を計画する。	・卒業生やワークセンター員の情報を関係機関と共有し、連携して本人の相談や就労先への理解啓発等を行うことができたか。	15	29	1	0	7	○職業科等を利用して、外部講師による指導を計画的に実施し、学年による指導の系統性も考慮してあった。 ☆進路学習について3年間でどのような学習内容を計画的、系統的にするのかわかるよう、手引きを見直している。新年度5月には配布（データで配信）できるよう計画している。
		③一人一人の卒業後の豊かな社会生活を目指し、アフターケアに適宜努める。	・卒業後3年間を基本として、定期的なアフターケアを関係機関等と連携して行う。	・卒業生やワークセンター員の情報を関係機関と共有し、連携して本人の相談や就労先への理解啓発等を行うことができたか。	19	23	0	0	11	○関係機関としっかり連携を取りながら実施することができた。 ☆今年度は年2回ある生活支援会議後のアフターケア資料を回覧したが、それに加えて何かあればお伝えするよう努める。 ☆卒業生会については、他の行事とのバランスをとりながら、教員を割り当てるなど、教員の参加を促したい。
		④センター員の就労生活に関する支援の検討を定期的に行い、スムーズな就労移行に努める。	・関係機関等の助言や情報提供を受けながら、連携して支援を行う。		14	22	2	0	14	○ワークセンター職員の支援について定期的に検討する場は設けることができた。 ☆ワークセンターに関わる諸事については、進路部長が管理職や担当と協力して対応していた。来年度は分掌としての業務には入れない方向で検討する。
	保健部	①教職員の危機管理意識の高揚に努める。	・緊急時救急対応訓練を実施する。	・新たな緊急グッズを使った訓練を前期に2回行い、1回目の反省・改善策を2回目に活かすことができたか。	20	30	1	1	0	○4月当初から救急対応カードの改善を図り、4月、7月にカードを使って訓練を行いながら改善を図った。消防署の立ち会いの下、指導やアドバイスを受けた。 ☆定期的に緊急時救急対応の手順や救急の情報をお知らせするなどしていきたい。 ○ヒヤリハットの情報共有、今後も続けて欲しい。 ☆各学部において、各学期末の学部会でヒヤリハットについて取り上げるようにし、それらを取りまとめヒヤリハット事例について全体で共有する。
		②性に関する教育を中心とした健康教育を充実させる。	・性に関するアンケートを実施し、実態やニーズを把握する。	・発生 の 都 度、報告を行い、教職員の情報の共有ができたか。 ・性に関するアンケート結果を学級や家庭と共有することができたか。	15	26	6	1	4	○家庭へ性に関するアンケートを配付し、実態やニーズを集約することができた。 ○職員会議Ⅱでアンケートの分析結果を伝え、学校としての課題を周知できた。結果は一覧にして学校・寄宿舎のフォルダにいれ、先生方が見られるようにした。 ☆来年度は、今年度のアンケート結果をもとに具体的な学習内容等を教職員ミニ研修等で提案していきたい。（例：情報教育と性に関する指導、家庭生活と性に関する指導、保健分野の学習を深める等） ☆外部講師による講話の内容は、生徒の実態をお伝えしながら講師の先生と一緒に指導内容を検討した。講話の内容は12月の保健日より保護者へ配付した。今後も家庭と共通認識した性に関する指導が行えるようにしたい。
	舎務部	①舎生会活動を通して、自らルールやマナーを意識して生活する資質を育てる。	・舎生徒の主体性を尊重しながらルールやマナーを決める。 ・様々な活動を通して共有体験を積み上げ、お互いを大切に育てる。	・舎生会を中心に主体的にルールやマナーを話し合ったり、決めたりすることができたか。 ・寄宿舎の行事を通して、共有体験を積み重ねることで、お互いを尊重する態度が育ったか。	20	25	1	0	6	○集団生活におけるトラブルは今年度もあったが、すぐに『生徒支援委員会』を開いて対処することや、一人ひとりの実態を指導員全員で共有することで、その後の対応に活かすことができた。また、トップダウンの指導ではなく、舎生会活動を通して、生徒発信でルールやマナーを意識したり改善したりすることが浸透してきている。 ☆舎生会活動を活発にし、寄宿舎での生活に関して、生徒の主体性を尊重しながらルールやマナーを決めたり、行事や地域活動に取り組んだりしていきたい。 ☆指導者のルールやマナー観を共通理解し、スレのないようにすることで、生徒が混乱することがないよう配慮したい。
		②社会自立の基礎を育むために、生徒の実態を正しく捉え、学校や保護者と共通理解を図る。	・話し合いを通して、学校との連携を密にする。 ・生活支援計画の様式を改め、学校や保護者に提示して共通理解を図る。	・学級会や学部会、個別のケース会など話し合う機会を通じて、生徒の実態の変化を共有できたか。 ・生活支援計画を改定し、学校や保護者に提示して共通理解を図れたか。	21	25	2	0	4	○学級会や学部会等に参加し、生徒の様子について情報共有することができた。 ○生活支援計画を改訂し、後期には保護者に開示することができた。 ☆より一層学校や寄宿舎指導員間で連携を密にしていく。
	事務部	①児童生徒が、安全で安心できる環境を整備する。	・施設・設備に対する適切な修繕、児童生徒が学べる環境の確保	・破損・故障・機能低下の箇所を把握しているか。	24	26	1	0	1	○施設・設備に対する適切な修繕がなされていた。 ☆生徒昇降口の電子錠設置と中学部・高等部教室の防犯扉化については、業者見積徴収中。今年度の修繕費の規定予算（100万）での設置は困難な状況であり、次年度の検討が必要である。
		②会計事務の適正な処理を行う。	・会計書類の整備・適切な事務処理	・会計処理に重大な誤りはないか。	23	18	1	0	10	○大きな問題はなく適切に処理できた。 ☆私費会計の処理については、処理の流れ・関係書類について2月の職員会議で説明する(4月当初にも担当者会を実施する予定)。

その他教員自己評価抜粋	<p>☆今年度は、地震・暑さ対策、インフルエンザ対応等の危機管理が必要となった。学校全体で危機管理/安全対策を行う必要性を感じる。</p> <p>☆児童生徒が安心安全に学べるという観点を念頭に、学習や行事の内容、実施方法等を見直しをできると良い（休日行事、夏期休業中の行事、PTA行事、体育祭や石見もりもり祭の運営等）</p> <p>☆自動車免許取得のルールの整理をするとよい。</p> <p>☆校内での学習会（校内教員を活用したミニ研修会）等があると専門性向上に繋がるのではないかと。</p>
保護者評価(自由記述抜粋)	<p>○とても子どものことを考えていただいていると、いつも感謝している。学校取り組みはとてもよく、子どもも充実している。</p> <p>☆本にふれあう機会が増えて良かったと思うが、本人自体があまり本を読むことがないのが残念。図書館利用の取り組みはとても嬉しい。</p> <p>☆今回「安全で安心できる学校になっていますか。」の問いをC（あまりできていない）とした。玄関の施錠も（安全管理/危機管理の）一つだと思われる。今後も経過報告をしてもらえると嬉しい。開かれた学校という観点を考えると難しい部分もあるが、対応をお願いしたい。</p>
学校関係者評価/学校評議委員会(抜粋)	<p>○少人数を生かした丁寧な指導がなされている。</p> <p>○指導方針がふれていない。毎年積み上げている学校であると思う。これまでの方針を継続して学習活動に取り組んで欲しい。</p> <p>☆石見養護学校の情報発信を広くして欲しい（地域は旧石見町だけではない）。</p> <p>☆知的障がいに係る理解啓発活動をしてほしい。他障がいと比べると周囲の理解を得にくい印象がある。</p> <p>☆理解啓発活動に係る出前講座等は積極的にやって欲しい。町内の小中学校だけでなく、公民館でも実施してもらえると良い。</p> <p>☆小さい頃から交流及び共同学習の場を設定することはとても有用であり、継続して欲しい。</p> <p>☆全ての児童生徒が『石見養護学校に来て良かった』と思えるよう、原因を探り、丁寧に対応して欲しい。</p> <p>☆行事の見直しについて、子どもが学校で学べた良かったと思えるように保護者、教職員で一丸となり支えていきたい。</p>

<p>めざす児童生徒像 「明るく・元気に・たくましく生きる人」</p> <p>を踏まえ、来年度、力を入れていくこと</p>	<p>○今できていることを確認しておく(石見養護学校の良さの確認：少人数で丁寧な指導、PTAや地域との協力体制、教員集団のまとまり等)。</p> <p>○+αの取組だけではなく、今できていることをより充実させる（但し、取組の軽重をつける）。</p> <p>○より充実させていく取組</p> <ul style="list-style-type: none"> □学習指導・生徒指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・わかる・楽しい・ためになる授業づくり(児童生徒の教育的ニーズに応じた教育)→授業作り研修の充実 ・道徳、人権同和教育の充実→全職員による取組 ・いじめや問題行動への対応：自己肯定感を高める生徒指導、悩みや課題に児童生徒が対峙できる指導→生徒と向かい合う時間の確保 □学校からの情報発信の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・地域への理解啓発活動→学校公開、出前講座、教育相談活動等 ・交流及び共同学習の計画的な実施→学校間交流、居住地交流 ・興味を持ってもらえるHPづくり ・図書活動のPR ・県立移管40周年に向けた取り組み(PTA及び地域との協力・連携) □危機管理・安全対策 <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練、緊急時対応訓練等の充実 ・安全点検の徹底、各種マニュアルの点検 ・児童生徒が安全に参加できる行事等の見直し
---	--